

平成30(2018)年度第1回 両毛地域病院及び有床診療所会議	資料 4
平成30(2018)年9月27日	

公的医療機関等 2025プランについて

安足健康福祉センター

「足利赤十字病院 2025プラン」(H29(2017)年10月)の概要

栃木県
医療政策課

医療機関の現状と課題

【特徴、政策医療】

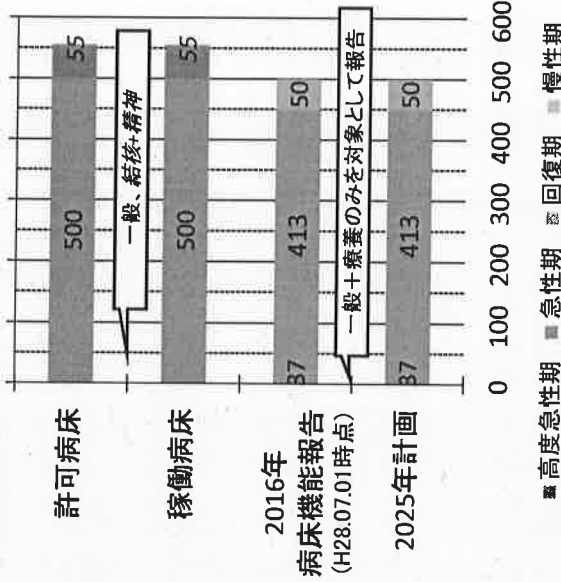
- ・ 両毛区域において唯一の第三次救命救急センターを有する病院として、24時間体制(常勤麻酔科医6名体制で緊急手術にも対応)の医療提供
- ・ 高度急性期及び急性期中心の医療を担っている
- ・ 地域周産期母子医療センターとしての医療提供
- ・ 災害拠点病院栃木県地域災害医療センターに指定・・・災害対策基本法及び大規模地震対策特別基本措置により指定公共機関としても位置付け
- ・ 認知症疾患医療センターに指定
- ・ 医療施設の国際的な認証機関であるJCI(Joint Commission International)の認証を取得
- ・ PFM(Patient Flow Management)の導入や、一般病床の全室個室化等により、病床コントロールが向上
- ・ 急性期精神疾患の入院治療を行っており、精神疾患に伴う身体合併症の治療にも対応
- ・ 同医療圏のシェア率を比較・・・がん患者のシェア率42.0%、脳卒中患者のシェア率63.8%、心筋梗塞患者のシェア率63.5%、糖尿病患者のシェア率83.0%・・・(DPC評価分科会による公開データ)

【地域との連携】 紹介率77.8% 逆紹介率73.5%(H28年度)
 ・ 開業医からの緊急紹介を断らず迅速に受け入れ・・・地域連携室が連絡を受けて即返答できるワンストップ受け入れ体制を開始・・・積極的な逆紹介

【課題】

- ・ 両毛区域でも不足である急性期医療を受けた後の受け皿となる医療機関(回復期や在宅)の整備に向けて、当院がリーダーシップを発揮していく必要
- ・ 更に地域医療連携を強化し、病床の機能分化を進めるため、特別養護老人ホーム等の高齢者施設への訪問を行っていく必要
- ・ 患者やその家族には、当院での急性期治療を終えた後、受け皿となる病院へ転院や、在宅医療等の必要性について理解していただくことが重要であり、そのため患者への説明力や対応力等の向上が必要

【病床の状況】



医師	133
看護職	600
その他医療専門職	208

今後の方針

【今後地域において担うべき役割】

- ・ 高度急性期及び急性期を中心として、両毛地域の救急医療、周産期医療、小児医療を支えていく
- ・ 今後地域医療機関や高齢者施設と連携を更に深め、地域完結型医療をより強固にする
- ・ 災害拠点病院として有事の際は両毛区域の医療を支えていく・・・事業継続計画(BCP)を成熟させ、職員への教育と訓練

【今後持つべき病床機能、その他見直すべき点】

- ・ 現在の機能を維持し続ける
- ・ 医療需要の推移を把握しながら対応

「佐野厚生総合病院 2025プラン」(H29(2017)年10月)の概要

栃木県
医療政策課

医療機関の現状と課題

【特徴、政策医療】

- 高度急性期、急性期、回復期、慢性期、精神科を備えたケアミックス型の総合病院
- 二次救急指定病院、地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院・・・地域に根ざした高度な医療提供

【地域との連携】 紹介率 65.0% 逆紹介率 45.5%(H28年度)
 連携登録医アンケート・・・小児科の夜間救急には大変助かっている・・・救急については今後も今の状態が続いて欲しい・・・診療科の充実・・・入院要請の受け入れ・・・後方ベッドの確保・・・急性期医療の役割は今後ますます重要となるので協力

【課題】

- 当院と足利赤十字病院で急性期を担う見通し・・・当院が供給できいない分野の強化と足利赤十字病院との機能分化
- 両毛区域における2025年の医療需要の予測に対して2016年度の症例件数・収入で比較・・・消化器系・呼吸器系は需要に対して十分な供給・需要の伸び率が内分泌や腎・尿路疾患は医師の確保ができておらず、供給できていない・・・神経系と循環器系は・・・需要は高い見込み・・・症例数は十分とは言えず、さらなる充実を要する
- 地域にさらなる充実が求められる診療科・・・脳血管疾患センター・・・循環器センター
- 「地域包括ケア病院の新設」「救急医療の充実」「地域連携の強化」「診療科の充実」が優先項目

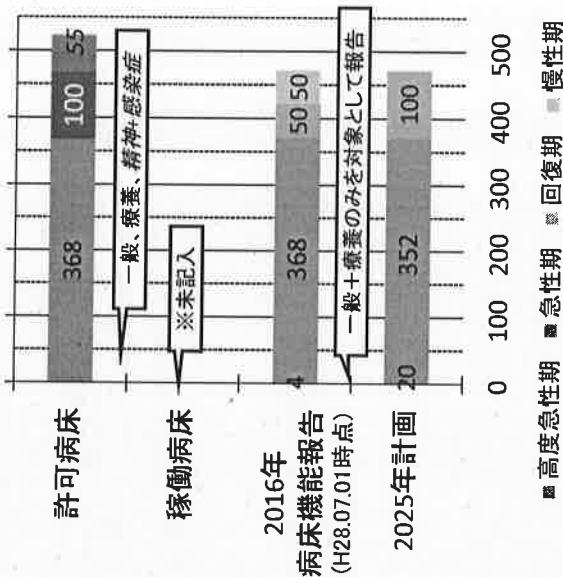
今後の方針

【今後地域において担うべき役割】

- 急性期・中核病院としての機能を発揮・・・地域医療を支えるかかりつけ医や慢性期の入院医療機関との連携体制のもとに機能分化を図る・・・地域の現状、地域の声を取り入れ地域医療構想の実現に貢献
- 将来の患者推計に沿った診療科の充実、紹介患者の受入れ拡大、5疾患・・・の診療体制の充実、5事業・・・に対しては特に救急医療の充実や災害対策の立ち上げ

【今後持つべき病床機能、その他見直すべき点】

【病床の状況】



常勤職員数	
医師	77
看護職	372
その他医療専門職	151

- 当院では病床数は減らさず、必要に応じた機能転換
- 【回復期機能の充実】・・・リハビリテーションの機能を活かし回復期の充実・強化・・・地域包括ケア病棟導入も今後の検討課題・・・退院調整部門を強化
- 【診療科の充実】・・・医療需要と当院の実績から今後の診療科を検討・・・消化器疾患と呼吸器疾患に関しては・・・実績を有している・・・脳血管疾患と循環器疾患については十分とは言えず・・・内分泌疾患、腎・尿路疾患患においては・・・人員確保ができていない・・・さらに医療の専門化・細分化に伴うセンター化構想の実現、研修センターを設立し多種多様なスタッフの専門性を生かしたチーム医療の向上を目指す
- 【救急医療・災害対策】・・・特に救急医療の充実と災害対策の立ち上げが必要・・・災害拠点病院取得を視野
- 【がん診療の拡充】・・・院内外連携の上、この区域でのがん診療の中心的役割を担って・・・早期がんの低侵襲性治療として内視鏡治療のセンター化、手術・化学療法法の充実・・・緩和ケアチーム・・・緩和ケア病棟新設も念頭に

病院策定のプランを抜粋